

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

# 京都観世会一月例会

平成31年1月13日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



翁

〈能〉

大江又三郎

難

波

青木道喜

羯鼓出之伝

鎧

〈狂言〉

茂山千作

羽

衣

観世清和

彩色之伝

小鍛冶

〈能〉

深野貴彦

主催 公益社団法人 京都観世会



## 会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

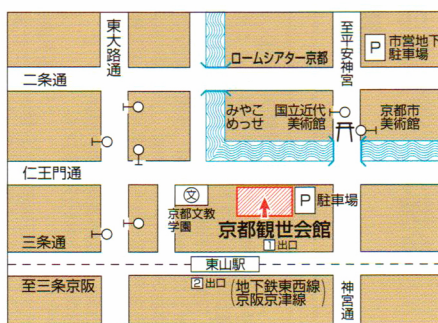
お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます <http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます Pコード: 490-629

前売券 (1階当日指定席) 6,000円  
当日券 (1階当日指定席) 6,500円  
学生券 (2階自由席) 3,000円

### 京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
  - JR京都駅から — 市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
  - 地下鉄丸太町線「丸太町池駅」で東西線乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
  - 阪急河原町駅から — 市バス[31][46][201][202][203][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
  - 京阪三条駅から — 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
  - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
  - JR二条駅から — 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
  - 山科・醍醐方面から — 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
  - 地下鉄東西線「東山駅」から — 徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。



# 京都観世会一月例会

翁 翁 大江又三郎

面井口竜也  
三番三 茂山忠三郎  
千歳 樹下千慧

男 河村浩太郎  
本華 浦部幸裕

難波

王 尉青木道喜  
朝臣原 大  
彌鼓出之伝 從臣岡 充  
梅ノ精松本 薫  
從臣 有松遼一  
大鼓谷口正壽  
小鼓 荒木建作  
小鼓 吉阪一郎  
大鼓 井上敬介  
大鼓 井上敬介  
笛 杉 信太郎

鎧

果報者 茂山千作  
（狂言）  
大郎冠者 茂山千五郎  
すっぱ 網谷正美

野屋 守 島

浦田保浩  
杉浦豊彦

（二時五十分）

羽衣

天人 観世清和  
漁夫 白龍 福王茂十郎  
彩色之伝 漁夫 喜多雅人  
大鼓 河村 大  
小鼓 林 吉兵衛  
大鼓 前川 光長  
太鼓 前川 光長  
笛 杉 市和

老松 東北  
鞍馬天狗

片山九郎右衛門  
井上裕久  
林 宗一郎

小鍛冶

童子 深野貴彦  
三條宗近 小林 努  
橋道成 原 陸  
大鼓 河村眞之介  
小鼓 曾和鼓堂  
太鼓 前川 光範  
笛 森田 保美

附祝言

（終了予定 五時三十分頃）

## 後見・地謡

（後見） 大江信行  
浦田保浩

河村和晃  
梅田嘉宏  
田茂井廣道  
分林道治  
吉浪壽晃  
古橋正邦  
杉浦豊彦  
河村博重

（狂言後見） 山口耕道  
鈴木 実

（後見） 山下守之

（地謡） 浦田親良  
橋本磯道  
橋本雅夫  
味方 團

（後見） 林 宗一郎  
片山九郎右衛門

大江広祐  
大江泰正  
橋本忠樹  
味方 團  
片山伸吾  
河村和重  
井上裕久  
河村晴道

（地謡） 宮本茂樹  
牧野和夫  
武田邦弘  
橋本擴三郎

（後見） 河村晴久  
深野新次郎

河村和貴  
松野浩行  
吉田篤史  
橋本光史  
浅井通昭  
越賀隆之  
浦田保親  
味方 玄

## 解説

翁

難波の猿楽者「乱舞役者」が「うつつたりたり」を謡うようになったのは、いつからであろうか。翁は天下泰平・国土安穩を神に祈り、神がそれを予祝するセレモニーで、本来は専門の「翁猿楽」者がいたのだ。

「翁猿楽」者がいたのだ。まの能の元祖とされる観阿弥は、乱舞の人である。しかし、祖父にあたる山田の美濃大夫と若者が難波の春景色を、たとえ、梅の木蔭を掃き清めている。朝臣がその梅について尋ねると、名高い難波の梅について昔百濟国から来た王仁が詠んだ「難波津に咲くや木の花」の歌を引き、仁徳帝とこの梅と縁の深いことを教え、仁徳天皇仁政を語って、実は自分はその王仁の霊であり、若者は梅の精であると打ち明け、今夜舞臺を奏して見せようといつて消え失せる。

（中入） 花の下の夜が更けると、花の精に音楽が聞こえ、梅の神霊である本華開邪姫と王仁が現われ、姫の舞に続いて王仁が舞臺を奏し、天下泰平を祝福する。

（中入） 春の朝風が行き過ぎ、鞍河内、三保の松原は不思議な空気に包まれた。そんな中、漁師の白龍は松にかけられた美しい衣を見つめる。家へ持ち帰ろうとする折、声がかける者があった。その衣の主、天人である。羽衣

## お客様へお願い

- ◆特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆開演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
- ◆「翁」が始まりましたら、一階見所へのお出入りを遠慮いただきます。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

## 【表紙写真】

（翁）大江又三郎  
金の星渡辺写真場 撮影

## 次回予告

京都観世会一月例会

平成31年2月24日(日)

午前11時開演

（能） 弱法師 味方 玄

（狂言） 二九十八 茂山千三郎

（能） 源氏供養 杉浦 豊彦

（能） 烏帽子折 大江 信行

三番三によって、コミカルにそれがモドカれる。つまり、わかりやすく説かれるのだ。翁は祝儀襷であって、芸ではないのだから、慇懃で、すがすがしく、めでたいというのが身上でなくてはならない。

（中入） 一条帝は、ある夜夢を夢を夢を、剣を打てとの勅使を宗近の許へ下す。宗近は、それ程の大事の剣ならば、自分に劣らぬほどの相手がなければ成就しないと思退するが、勅命には敵わず承引する。宗近が神力を頼みに船荷に参ろうとすると、その途上、童子に行き交う。不思議にも、童子の事を早くも知っている。童子は、唐土と日本の剣の奇譚を語り、中でも日本武尊が夷を退けた草薙の剣のことを、委しく仕方話に語って名を尋ねると、剣を打つ壇を飾り整えて待てと言ひ、力を貸すことを約束して船荷の方へ消えてゆく。

（中入） 宗近に仕える者が、宗近の不思議な体験を再度語り、壇の用意を人々に促す。宗近は身支度して待つ。すると船荷明神の使い、雲狐が現れて宗近の相植を勧め、帝の剣を見事に打ちあげた。表に「小鍛冶宗近」裏に「小狐」と打たれた二つ銘の名刺は勅使に渡され、雲狐は雲に乗って船荷の峯に去って行った。